

関西大学『国文学』投稿規定

- 一、投稿者は、原則として関西大学国文学会会員に限る。
- 二、委員会の承認があった場合に限り、特例として、上記以外の者の投稿を認める。
- 三、投稿論文は、原則として四〇〇字詰め原稿用紙四〇枚以内とする。
 - 縦書き…一頁の書式を二十八字×二十行×二段とし十六頁以内
 - 横書き…一頁の書式を三十七字×三十二行とし十六頁以内
- 四、投稿論文の採否は、委員会で決定する。
- 五、投稿原稿の返却を希望する場合は、切手を貼った返信用封筒を添付すること。
- 六、掲載された原稿の著作権は執筆者が有する。ただし、原稿の二次利用としての電子化利用の権利は、掲載時点で執筆者が関西大学国文学会に許諾したものとす。
- 七、論文掲載者は、別途定める掲載料を支払うものとする。

◇編集後記

『国文学』一〇五号をお届けします。本号は、通常号ですが、二十名の執筆者による充実した内容となりました。新型コロナウイルスに世界中が脅かされる状況下でも、研究が継続できていることを実に有難く思います。

さて、国語国文学専修は、二〇二〇年九月、加藤洋介教授を亡くしました。着任してわずか一年半余り。残念至極ですが、多くの学部生、大学院生の指導を熱心にされ、本学のために力を尽くしてくださったことに深く感謝し、ご冥福をお祈りします。

一方、喜ばしいニュースもあります。二〇二〇年、藤田真一名誉教授が、多年にわたり、与謝蕪村、近世俳諧文学研究を牽引し、一般の俳諧愛好者を啓発してきた貢献により、第55回「大阪市民表彰（文化功労部門）」を受けられました。正に研究者の鏡です。また、本年は、尾道市立大学から片桐洋一、田中登名誉教授の学統を継ぐ平安和歌、古筆研究気鋭の研究者、岸本理恵准教授をお迎えいたしました。先生は、着任早々から、颯爽と学内業務や研究指導にあたり、今後は、後進の育成にも尽力してくださると確信しています。待望の女性教員で、本専修に明るく、暖かな新しい風を与えてくれ、爽やかな春の気分が専修全体に漂っています。今後も、新型コロナウイルスに負けず、新しい諸先生方とともに、国語国文学専修、そして関西大学国文学会を発展させていきます。

(周)